



植樹祭に際し挨拶する津元局長

合同植樹祭に250人
児童ら未来の地球環境へ提言発表

3月7日、7年ぶりの晴天の中、九州森林管理局・熊本森林管理署・熊本県・熊本市の共催による合同植樹祭が、熊本市の小萩国有林内において開かれ、

250人が参加しました。今回の植樹祭は、「美しい森林(もり)づくり推進国民運動」の一環として、地域住民をはじめ多くの方に森林に対する理解

や関心を深めることを目的に行われました。はじめに、津元頼光局長が「国土保全や地球温暖化防止に貢献する森林の役割への期待が高まっています。本日の植樹祭を契機に、森林づくりに対して、皆さまの一層のご理解とご支援をいただきたい」とあいさつ。続いて来賓を代表して熊本県議会議長代理の池田和貴県議会議員が「県議会としても森林と人との共生の機運を一層盛り上げ、水とみどりの財産づくりに積極的に取り組んで参りたい」と祝辞を述べられました。

また、永年にわたりボランティア活動により協力をいただいたNPO法人災害通信ネットワークの橋本正與理事長に局長から感謝状の贈呈が行われました。続いて、「未来の地球環境への提言」と題して、熊本市立西里小学校と同松尾西小学校の児童らが緑に親しむ活動を発表。西里小からは、「道路清掃のボランティア活動で集めた落ち葉を利用して堆肥を作り、それを利用して学校で花を育てていること。また、私達の宝物である地

球を守るため、緑に親しみ緑をふやす活動をこれからも続けていきたい」と発表。松尾西小からは、「これまで手入れが行われていなかった林を整備する活動を通じて森林が生まれ変わることにわかった。これからも地球環境を守っていくために私たちに何ができるかをもっと学習していきたい」と発表し、未来の地球環境への力強いメッセージが述べられました。

式典終了後、代表者による記念植樹を行い、参加者全員でヤマザクラ、イロハモミジなどの広葉樹1000本の植樹を行いメッセージを書いた短冊を立て植樹祭を終了しました。

担当＝指導普及課



元気に発表する熊本市立松尾西小の児童ら

沖縄北部国有林の 今後の取扱について最終答申

第9回沖縄北部国有林の取り扱いに関する検討委員会が3月3日、沖縄県那覇市内で開かれました。

当検討委員会は、平成8年12月の「沖縄に関する特別行動委員会（SACO）」の最終報告に基づき、北部訓練場から返還される国有林約3400㍏の機能類型区分や返還後の取り扱いなどを検討するもので、平成9年9月からこれまで8回に及ぶ会合が行われました。

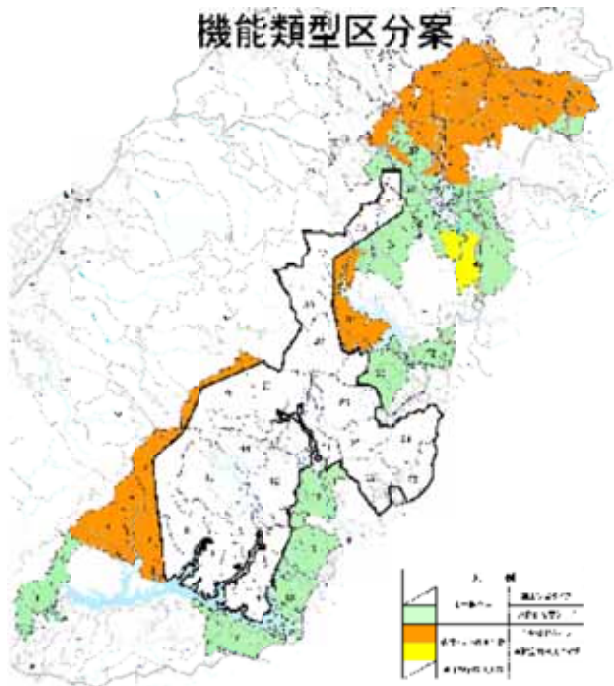
「森林生態系保護地域計画」（案）の内容を審議するとともに、検討委員会としての最終報告書の取りまとめに向けて検討を行いました。

委員からは、保護林であったても手を入れながら守っていくことが必要、他局では民有林を取り込んだ緑の回廊の例があることからぜひ実現していただきたいなどの意見があり、これらを反映し「沖縄北部国有林の今後の取り扱いについて」の報告書が取りまとめられ、九州森林管理局長に答申されました。本報



最終答申を受けとる津元局長

機能類型区分案



報告書では、「森林生態系保護地域」として指定する国有林については、学識者などからなる保全管理のための委員会を新たに設置し、科学的検討を行うにつ順応的管理を図っていくこと

森林生態系保護地域のみならずその周辺の国有林や民有林と関連した「緑の回廊」、水源かん養機能を高度発揮させるための森林整備手法、木材の有効利用を図り木材の安定的供給に寄与する方法などの検討の必要性について提言されています。

今後、九州森林管理局では、本報告書に基づき、返還後の国有林野の適切な管理経営を行うとともに、地元関係者とも連携を図りながら、沖縄北部地域の森林が後世へ引き継がれていくよう努めていく考えです。

（担当：計画課）

小萩園にサクラ記念植樹

【熊本森林管理署】小萩園（熊本市）を市民に愛される桜銘花木園として再生させるため、「ライフサイクルの森」制度を活用し、昨年に続きサクラ記念植樹を行いました。当日は、くまもと自然休養林金峰山地区保護管理協議会事務局長を来賓に迎え、応募者50組を含む約160人が参加。サクラ13品種53本の植樹を行いました。標柱には「めざせ千本桜小萩園。この木が温暖化防止に役立つように」などのメッセージが添えられています。「来年も記念植樹に参加したい」との声も聞かれるなど参加者に大変好評でした。



サクラの記念植樹に参加の皆さん = 熊本

参加した地元住民ら = 宮崎北部



植樹やシカ防止対策に汗

【宮崎北部森林管理署】八戸森林事務所管内の国有林内で森林生態系保全・再生対策事業として九州保健福祉大（延岡市）の学生や地元住民約20人でミスメヤコミネカエデなど10品種の広葉樹60本の植樹やシカ食害防止のための幼令樹保護カバールの設置を行いました。学生の中には初めての体験者もいましたが、職員にアドバイスを受けながら作業に汗を流していました。最後に、マツ枯れ病についての講話を実施。マツ枯れの実態と当局が取り組んでいる対策について知識を深めました。



表彰状を胸に受賞者の皆さん = 局長室

国有林間伐推進コンクールで 林野庁長官最優秀賞受賞

3月5日、九州森林管理局大会議室において、「平成20年度国有林間伐推進コンクール」の発表会および表彰式を行いました。

昨年度は、管内各署などから17事例の応募があり、優秀であった5事例を林野庁で開かれる全国コンクールに推薦した結果、大分西部森林管理署管内の「中津造林有限公司」が林野庁長官最優秀賞を受賞しました。

これは、簡易で崩れにくい路網の作設と高性能林業機械を使

用し、現地の立地条件や機械配置を工夫することで、生産コストの縮減、生産性の向上に繋がった事例で、大分西部森林管理署から発表が行われました。

受賞者の方々は、次のとおりです。

林野庁長官最優秀賞
・ 中津造林有限公司
九州森林管理局長優秀賞

- ・ 東部林業事業協同組合
 - ・ 熊本素材生産販売協同組合
 - ・ 有限会社延岡物産
 - ・ 小林地区林業協同組合
- (担当＝販売課)

150人が吹上浜に植樹

【鹿児島県森林管理署】「美しい森づくりin吹上」と題し、気になったということもありました。

私は福岡の筑後平野で育ち、川で泳いだり、河川敷で遊んだりしていました。あまり山の中を歩いた記憶はありません。大学に入って林学を専攻するまでは国有林という言葉なんて聞いたこともありませんでした。



曾我部 亮輔さん

私がモニターに応募したのは、大学の先生に誘われて初めて国有林モニターというものを知り、どんなものだろうという興味本位からでした。国有林という自分にとってあまり身近でなく、謎の多い場所。日ごろどんなことが行われているのかわりたかったし、同じモニターになる一般の人たちは一体どんな思いを持って参加されるのか

林業を守る大切さ

私は、大学の先生に誘われて初めて国有林モニターというものを知り、どんなものだろうという興味本位からでした。国有林という自分にとってあまり身近でなく、謎の多い場所。日ごろどんなことが行われているのかわりたかったし、同じモニターになる一般の人たちは一体どんな思いを持って参加されるのか

日置市の吹上浜で植樹祭を行いました。当会場は、平成18年の台風による高波の被害で護岸や林地が破壊されたため、護岸工事などの治山工事を行った個所。当日は、地元の幼稚園児16人を始め総勢150人が参加し、抵抗性マツ550本を植栽しました。参加者からは「いい体験ができて良かった、一日も早く素晴らしい松林になってもらいたい」との声が聞かれました。



園児も参加し植樹 = 鹿児島

先日宮崎で行われた国有林モニターブロック会議に参加して、多くの人とお話しすることができました。植樹祭には一般の人、ボランティア団体の方、地元の小学生など、約200人が参加していて、こんなに多くの人に参加するとは思っていませんでした。

が、林学を勉強している身として欲を言つと、林業の大切をもらえたと一般の人に分かってもらえた、いいなあと思います。

林業というのは非常に専門性が強く、関わりがない人にはまったく知られない世界だと感じています。林業が活性化することで日本の手入

深さ、課題、まだまだ完成されていない産業としての将来性などを感じています。また、私は鹿児島大学演習林で小学生向けに行われる沢登り、林業体験などの活動にスタッフとして参加することもあり、こういった森林環境教育の必要性・有効性も日々感じているところではあります。

林が健康になつていく、林業を守ることが日本の森林を守ることに。そんな大事な産業なのに周りの人々の理解がないのは残念です。自然の大切さと一緒に、林業の大切さも伝えていきたいな、と思いました。

(鹿児島県鹿児島市在住)



沖縄県のシンボルである首里城



沖縄森林管理署

はじめに

琉球王朝時代、蔡温は、荒廃した森林資源を回復するため、林政に関する7つの規定を制定し、杣山制度を創設するなどして琉球林業の基礎を築きました。しかし、戦後の乱伐やキオビエダシヤクなどの病害虫の発生により、首里城復元に必要なイヌマキをはじめとする有用な木

材資源が枯渇するとともに、木造住宅の減少などにより沖縄の木の文化の衰退が危ぶまれています。

これまでの取り組み

このため、昨年3月に首里城古事の森育成協議会を設立し、首里城の復元や修復に必要な材料となるイヌマキなどを育成する活動に取り組むこととしました。

第1回目の協議会では、平沼孝太沖縄森林管理署長と尚弘子育成協議会会長との間で、「首里

「沖縄でスタート
首里城古事の森づくり」

城古事の森づくり活動に関する協定書」の調印を行い、「古事の森」づくりがスタートしました。

育成協議会の最初の活動として、昨年2月末に首里城古事の森シンポジウムと沖縄北部国営有林でのイヌマキの植樹を行いました。

シンポジウムでは、首里城内において、「古事の森」提唱者の立松和平氏、福島駿介琉球大学名誉教授、仲間勇栄琉球大学教授の3氏による講演とパネルディスカッションを行いました。



3氏によるパネルディスカッション

翌日は、場所を沖縄北部国営有林に移し、尚会長、内藤邦男林野庁長官や国頭村立安田小学校の生徒、父兄、先生など70人が参加して200本のイヌマキの苗木を植栽しました。最後に安田小学校生徒全員により、「首里城古事の森宣言文」が読み上げられ、植栽を終りました。

おわりに

今後も首里城の修復などに必要な木材供給を支える象徴として、「古事の森」づくり活動を行い、沖縄の木の文化の継承に貢献していかなばと思っています。

治山工事施行地内に植樹

【大隅森林管理署】川上小学校卒業記念植樹を当署管内の立谷国営有林の治山工事施工地内で実施。当該地は平成19年の台風で山腹が崩壊し、下流域に長期間濁りが生じたため、川上小学校や地区住民からの要請により復旧した箇所。当日は川上小児童や地元住民などが参加し、ヤマザクラやヤマモモなど60本を植樹しました。「公園のごつたな」との地元の方々の言葉に身の引き締まる思い。今後は地元住民によるつる切りや下刈りなどの作業を行いながら、卒業生6人が成人式を迎える8年後に再会を約束し閉会しました。



植樹を行った状況や地域住民ら = 大隅

ふれあいツアーを実施

【宮崎北部森林管理署】耳川流域森林・林業活性化センターと連携して「都市住民を対象にした森林・林業ふれあいツアー」を実施。日向市商工会会員など15人が参加しました。はじめに、耳川広域森林組合諸塚加工センター（諸塚村）や民有林のスギ・ヒノキの伐採現場を見学しました。昼食の後、お倉ヶ浜の国営海岸林（日向市）で、抵抗性マツ60本を植えました。参加者からは「森林・林業を理解する上で良い機会になった。今後こういう機会を作っていたらいい」などの意見が聞かれ、有意義な1日となりました。



ふれあいツアーに参加の皆さん = 宮崎北部

森林GISコンクール 活用事例など発表

3月10日に九州森林管理局5階第1会議室において、「平成20年度九州森林管理局森林GISなど活用事例コンクール」を行いました。

今回で2回目となる当コンクールは、森林GISを使用した具体的な活用事例を募集し、独創的で効果的な活用方法であるか、広く誰でも使用できるような汎用性のある活用方法であるかなどの観点から審査を行い、優秀な事例について発表いただきました。

各部門の優秀賞は次のとおりです。

技術部門 丸橋勝寿(宮崎北部)



活用事例を発表の皆さん

普及部門 北島貴裕、石原拓弥

(屋久島)

業務事務改善部門 長谷川健一

(指導普及課)

(担当：企画調整室)



熱演する児童 = 大分西部

児童「森林の役割」を熱演

【大分西部森林管理署】宇佐市立深見小学校福貴野分校で、昨年、当署が行った森林教室を題材にした「山を守る」という演劇の発表会が行われました。6人の児童らは、国有林へ不法投棄防止の手作りの看板を設置するなどのこれまでの活動を通じて、森林の役割や重要性、自然

の大切さを熱演。校舎には来賓の方々大きな拍手が鳴り響いていました。

60人が海岸林へ植樹

【宮崎北部森林管理署】延岡市の浜山国有林において、ライフサイクルの森造成事業として、延岡中央ロータリークラブ会員30人のほか、延岡市の東海東小学校や川島小学校緑の少年団30人も参加し、抵抗性マツやシロダモなどの植樹を行いました。植樹の後、延岡森林事務所森林官が海岸林の役割を説明。流域管理調整官は紙芝居「森林からのおくりもの」を用い森林の役割や大切さを教えました。当海岸林は、今後も延岡中央ロータリークラブと下草刈りなどの整備を行うことにしています。



植樹をする緑の少年団 = 宮崎北部



熱心に耳を傾ける児童 = 佐賀

東唐津小学校で森林教室

【佐賀森林管理署】唐津市立東唐津小学校の要請を受け、全校児童70人を対象に森林教室を行いました。最初に、鏡山から撮影した虹の松原の背後に広がる住宅地や田畑が映し出された全景写真2・5枚を用い、森林の役割について説明。続いて、マツノサイセンチュウやマツノマダラカミキリとマツ枯れの関係について説明を行うとともに、被害を防ぐために当署が行っている予防対策について説明を行いました。当小学校は「虹の松原」を守る活動などに全校を挙げて取り組んでいる小学校です。最後に、白砂青松を再生するためにこれからはいろいろな活動をお願いしますと締めくくりました。

縄文杉からのメッセージ

【屋久島森林管理署】九州森林管理局・屋久島森林管理署の主催で、シンポジウム「屋久島世界自然遺産・縄文杉からのメッセージ」を財)屋久島環境文化村センターにおいて開催。シンポジウムでは、樹木医の荒田洋一氏が「縄文杉」の現況や屋久島の植生の垂直分布に関するモニタリング、地区ごとの植生の違いや変化について報告。また、大陸からの汚染物質の可能性や薩摩硫黄島からの噴煙が定期的



シンポジウムに参加の皆さん = 屋久島



4月1日付林野庁長官発令

- 四国局森林整備部長
- 坂田幹人(森林整備部長)
- 森林整備部長
- 大貫肇(林野庁管理課監査官 兼業務課)
- 兵庫森林管理署長
- 中島孝雄(福岡森林管理署長)
- 福岡森林管理署長
- 津々見正樹(四国局総務部長)
- 鹿児島森林管理署長
- 山部哲経(宮崎北部森林管理署長)
- 宮崎北部森林管理署長
- 中原一則(石川森林管理署長)
- 林野庁業務課企画官
- 鶴園重幸(宮崎南部森林管理署長)
- 宮崎南部森林管理署長
- 日高瑞記(林野庁管理課監査官 兼経営企画課)
- 大隅森林管理署長
- 肥後幸男(北薩森林管理署長)
- 北薩森林管理署長
- 大川有一(総務部契約適正化 専門官)
- 総務部契約適正化専門官
- 上原広充(屋久島署次長)

林野庁治山課課長補佐

- 飯田喜章(計画課長)
- 計画課長
- 岡村和哉(林野庁企画課課長 補佐)
- 近畿中国局指導普及課長
- 田代今朝広(指導普及課長)
- 指導普及課長
- 石神智生(林野庁木材産業課 課長補佐)
- 計画部自然遺産保全調整官
- 森本光則(企画調整室監査官 企画調整室監査官)

一本讓(森林総合研究所)

- 森林総合研究所
- 渡邊豊(計画部企画官)
- 計画部企画官
- 宮島章(森林整備部企画官)
- 森林整備部企画官
- 井廣二(企画調整室監査官)
- 森林整備部企画官
- 前田道博(企画調整室管理官)
- 森林整備部企画官
- 岸川正博(森林技術センター 所長)
- 森林技術センター所長
- 山形克明(森林総合研究所)
- 屋久島署次長
- 上原暁光(屋久島森林環境保 全センター所長)
- 林野庁整備課林道改良係長
- 山部秀巳(宮崎北部署)

林野庁業務課分収林係長

- 古澤竜喜(熊本署)
- 林野庁管理課給与用度係
- 中田有香(宮崎北部署)
- 4月1日付森林管理局局長発令
- 企画調整室長補佐
- 猪島明久(近畿中国局)
- 屋久島森林環境保全センター所 長
- 塚本徹(企画調整室)
- 計画課企画官
- 小原豊治(国有林野管理課)
- 指導普及課生態系管理指導官
- 田中佳晴(宮崎南部署)
- 国有林野管理課鑑定官
- 井上信義(企画調整室)
- 森林整備課設計指導官
- 赤星良治(森林整備課)
- 治山課設計指導官

山下正(治山課)

- 福岡署流域管理調整官
- 山本美美(森林整備課)
- 長崎署流域管理調整官
- 山口照秋(森林整備課)
- 熊本署流域管理調整官
- 岩本信也(熊本南部署)
- 企画調整室企画調整係長
- 高島寛(宮崎署)
- 計画課経営計画第六係長
- 本村明広(森林整備課)
- 指導普及課企画係長
- 古島勝美(熊本南部署)
- 国有林野管理課企画係長
- 永田豊(国有林野管理課)
- 国有林野管理課財産管理係長
- 松永眞弥(佐賀署)
- 森林整備課林道計画係長
- 森永敏朗(長崎署)
- 森林整備課林道実行係長
- 吉田真佐也(大分西部署)
- 森林技術センター森林技術専門 官
- 宮本和美(宮崎署都城支署)
- 森林整備課付
- 上山尋海(森林整備課)
- 宮崎署総務課長
- 古閑智之(指導普及課)
- 宮崎南部署総務課長
- 大平留男(宮崎署)
- 佐賀署業務課長
- 中村雄二(西都児湯署)
- 長崎署業務課長
- 渡邊健一郎(計画課)

新規採用者紹介

当局では4月1日付けで、種6人、種8人を採用。4月7日からの「新規採用者研修」に各署等から集合し、津元頼光局長ら幹部を囲んで記念撮影を行いました。新生国有林に夢をもつて大きく羽ばたいてください。配属先は次のとおりです。

- 種(林学)
- 竹森千恵(企画調整室)
- 古川洸太郎(指導普及課)
- 飛矢舞(森林整備課)
- 樋口真土(福岡署)
- 駒井裕治(大分署)
- 田中優哉(沖縄署)
- 種(林業)
- 古川翔太(長崎署)
- 三國稔典(熊本署)
- 小野稔和(熊本南部署)
- 小崎凌平(宮崎署都城支署)
- 高森公章(宮崎南部署)
- 寺地祐人(宮崎南部署)
- 東智美(北薩署)
- 一山隼人(鹿児島署)



津元局長らを囲み心新たに

熊本署業務課長

竹部浩一郎（宮崎北部署）

大分署業務課長

宮川茂則（宮崎南部署）

熊本南部署業務第一課長

下村治雄（森林技術センター）

宮崎北部署業務第一課長

奥田博司（計画課）

大分西部署治山課長

篠村和希（大分署）

宮崎北部署治山課長

久保田利郎（西都児湯署）

西都児湯署治山課長

福田貴史（治山課）

宮崎署技術専門官

藤本純一（関東局）

熊本署技術専門官

北里孝徳（熊本署）

大分西部署技術専門官

杉中邦浩（販売課）

北薩署技術専門官

嶋崎国浩（関東局）

鹿児島署技術専門官

橋本侯夫（鹿児島署）

屋久島森林環境保全センター専門官

須本節夫（宮崎署）

福岡署総務係長

澤田逸男（職員厚生課）

西都児湯署総務係長

木村宏（福岡署）

宮崎南部署総務係長

外山三男（宮崎南部署）

沖縄署総務係長

祐野誠治（沖縄署）

宮崎署経理係長

山部紗耶佳（宮崎署）

屋久島署経理係長

田中善成（宮崎署）

福岡署経営係長

山岡文磨（熊本署）

熊本署経営係長

渡邊昭伍（宮崎署）

宮崎署都城支署経営係長

上別府悟（鹿児島署）

鹿児島署経営係長

犬童伸博（北薩署）

沖縄署経営係長

佐藤剛（沖縄署）

福岡署森林育成係長

岩田大輔（福岡署）

長崎署森林育成係長

榎本大輔（宮崎署）

熊本署森林育成係長

山口隆志（熊本署）

宮崎北部署森林育成係長

阿部夏子（大分署）

北薩署森林育成係長

吉海裕和（計画課）

福岡署販売係長

八田健吾（森林技術総合研修所）

熊本署販売係長

松下俊二（熊本署）

大分西部署販売係長

井崇行（熊本南部署）

大分署販売係長

松井弘喜（大分西部署）

宮崎署販売係長

後藤善史（宮崎署）

鹿児島署販売係長

白内慎哉（北薩署）

熊本署土木係長

阿部一元（森林整備課）

西都児湯署土木係長

原口尚也（北薩署）

西都児湯署森林ふれあい係長

東敬介（宮崎署）

沖縄署森林ふれあい係長

高瀬智晶（沖縄署）

西都児湯署管理係長

山部勝範（西都児湯署）

宮崎署都城支署管理係長

岡田伸一（北薩署）

宮崎南部署管理係長

栗島晋司（宮崎南部署）

北薩署管理係長

岩下治喜（宮崎南部署）

沖縄署管理係長

歌野博幸（西都児湯署）

熊本署治山第一係長

井孝好（大分西部署）

大分西部署治山第一係長

竹原敬一郎（熊本南部署）

北薩署治山第一係長

中間文博（鹿児島署）

鹿児島署治山第一係長

歌野邦美（鹿児島署）

大隅署治山第一係長

後藤誠也（長崎署）

鹿児島署治山第二係長

松永和久（熊本署）

長崎署治山事業所主任

中村健一（熊本署）

熊本南部署首席森林官

山下修（国有林野管理課）

宮崎署都城支署首席森林官

田中清公（鹿児島署）

宮崎南部署首席森林官

春山司（経理課）

長崎署森林官

池田俊彦（福岡署）

相村英範（大分署）

江島昭則（宮崎署都城支署）

内海康雄（屋久島署）

熊本署森林官

転勤挨拶

お世話になりました



前 森林整備部長
坂田 幹人

森林整備部長としてわずか1年間、屋久島森林管理署から通算すれば3年間九州局でお世話になりました。「九州から日本林業再生を」という目標を掲げ、議論すべきは議論して決まればそれに向かってみんなで頑張る。そんな雰囲気の中で過ご

させていただいた3年間は毎日
が充実したものでした。
昨年来の景気悪化による木材
価格の下落など、森林・林業を
取り巻く環境は厳しさを増して
きていますが、「こんな時こそ
九州国有林が頑張らねば。地域
の民有林を引っ張っていかねば」
と、思っていた矢先に異動するこ
ととなり、正直私自身も驚いて
いるところです。「日本林業の
トップランナーである九州国有
林であればこそ何かできるはず」
という思いでしたが、その芽が

出るところまで見れないことが
心残りです。
今度は四国局でお世話になる
ことになりましたが、「西三局」
という言葉もあるようですので
九州局の皆さんにもまた何かと
お世話になる機会もあるのでは
と、思っておりますが、その際は
よろしく願います。「明る
く、誇れる職場」「更なる一歩
を」をモットーに四国でも頑張っ
ていきたいと思っております。
最後に、九州森林管理局の益々
のご発展と皆様方のご健勝をお
祈り申し上げ、お別れのご挨拶
とさせていただきます。本当に
ありがとうございました。

長い間ご苦労様でした

定員内職員 : 25人

3月31日付林野庁長官発令

- 山長重成(鹿児島署長)
- 石谷敏廣(大隅署長)
- 甲斐博文(計画部)
- 3月31日付森林管理局长発令
- 佐野二則(企画調整室)
- 古木輝雄(総務部)
- 渡辺年春(総務部)
- 岩下恵三(計画部)
- 坂本正吉(計画部)
- 佐渡保信(計画課)
- 本田安幸(治山課)

河村隆(佐賀署)

- 竹本次男(長崎署)
- 岩下英基(熊本署)
- 古澤輝章(熊本署)
- 矢野いくよ(熊本署)
- 倉本健吉(大分西部署)
- 井上喜男(西都児湯署)
- 島田一樓(宮崎署)
- 白崎安男(宮崎署)
- 塩井孝(宮崎署都城支署)
- 西山修一(宮崎南部署)
- 宮脇順一(北薩署)
- 岩坪和義(北薩署)

定員外職員 : 27人

- 藤本勝典(鹿児島署)
- 日高 幸雄(大隅署)
- 今磯純夫(福岡署)
- 肝付信一(熊本南部署)
- 平山清英(熊本南部署)
- 田山安雄(熊本南部署)
- 宮本都美吉(熊本南部署)
- 山下眞一(熊本南部署)
- 永野信一(大分西部署)
- 諫山敏雄(大分西部署)
- 柳本守敏(大分西部署)
- 江藤敏廣(大分西部署)
- 渡辺一(大分署)
- 坂本今朝義(宮崎北部署)
- 立山幸一(宮崎北部署)
- 河野厚男(西都児湯署)
- 桑原哲治(宮崎署)
- 吉村一夫(宮崎署)
- 才田清治(宮崎署)
- 佐々木満男(宮崎署)
- 小山五雄(宮崎署)
- 永井貞信(宮崎署都城支署)
- 山口裕美(宮崎署都城支署)
- 河野時春(宮崎南部署)
- 上野義信(北薩署)
- 山口久実(北薩署)
- 牧瀬一義(北薩署)
- 船迫通(大隅署)
- 田口貞雄(屋久島署)

- 嶋徹矢(計画課)
- 吉岡直人(大分西部署)
- 大山昭一(宮崎署都城支署)
- 熊本南部署森林官
- 桑原五男(熊本南部署)
- 入江和浩(鹿児島署)
- 大分西部署森林官
- 清田誠(長崎署)
- 大分署森林官
- 村上学(熊本署)
- 宮崎北部署森林官
- 森利幸(大分署)
- 西都児湯署森林官
- 沖田正志(鹿児島署)
- 宮崎署森林官
- 大塚磨(長崎署)
- 山本誠(宮崎署都城支署)
- 宮崎署都城支署森林官

- 高倉博文(熊本署)
- 橋本敏一(熊本南部署)
- 中川裕司(大隅署)
- 林田誠(林野庁)
- 北薩署森林官
- 戸島章治(指導普及課)
- 廣田俊之(北薩署)
- 高木一将(鹿児島署)
- 鹿児島署森林官
- 山川祐一(宮崎北部署)
- 柿田憲司(大隅署)
- 大隅署森林官
- 江口誠也(福岡署)
- 宮本一朗(北薩署)
- 屋久島署森林官
- 井誠喜(福岡署)
- 園田泰夫(宮崎署都城支署)
- 沖縄署森林官

- 濱田祥吾(長崎署)
- 長崎署付
- 坂本久良(長崎署)
- 福岡署課付
- 才保敬二(福岡署)
- 熊本署課付
- 中川秀樹(熊本署)
- 宮崎署都城支署課付
- 山本歩(宮崎署都城支署)
- 北薩署課付
- 松木昭(熊本南部署)
- 大隅署課付
- 福田錦吾(福岡署)
- 沖縄署課付
- 井川武史(沖縄署)
- 企画調整室係員
- 齊藤政子(林野庁)
- 職員厚生課係員

- 煤本憲三(企画調整室)
- 経理課係員
- 柏木和美(販売課)
- 石松伸二(九州農政局)
- 計画課係員
- 大石成人(西都児湯署)
- 山下和也(北薩署)
- 佐伯卓也(屋久島署)
- 東度考太(林野庁)
- 販売課係員 後藤毅(計画課)
- 治山課係員
- 田中國康(熊本署)
- 松岡良二(大隅署)
- 森林総合研究所出向
- 中西雄一郎(屋久島森林環境保全センター)
- 近畿中国局出向
- 片原三幸(福岡署)

- 和歌山県古座川町出向
- 池内麻里(長崎署)
- 石川県出向
- 勝沼太志(企画調整室)

伝統の愛林駅伝で力走山

【熊本森林管理署】山都町との共催で愛林駅伝を開催。「愛林」と名の付く駅伝は今では全国でただ一つ、昭和31年に始まり今回で54回を数えます。レースには山都町と近隣2町の中学校の8チームが参加し、矢部地区中心街を巡回する8区間24kmで競われました。当日はコンディションに恵まれ、二つの区間新記録が生まれるなど大いに盛り上がった大会となりました。



一斉にスタートする生徒ら = 熊本

安定供給システム発表会 販売課これまでの取組みを報告

九州各県の林業担当者や木材市場、製材・合板・集成材工場関係者など約100人の参加のもと、九州森林管理局大会議室において「平成20年度安定供給システム販売実績発表会」を開きました。

はじめに、当局販売課から「山元から販売までの行程とその成果」と題し、国有林における安定供給システム販売の取り組みを報告。続いて、住友林業フォレストサービス株式会社の小林啓介事業部長、日田十条株



特別講演を行う石山企画部長

式会社の瀬戸亨一郎専務取締役、山佐木材株式会社の有馬宏常務取締役の3者から新たな取り組みに向けた提案などが発表されました。

最後に「最近の木材産業を巡る動き」と題して、日刊木材新聞本社企画部長の石山幸男氏による特別講演を実施。盛会のうちに終了しました。

(担当＝販売課)



私達にとって転勤は避けて通れないものです。私の場合、ここ十数年は転勤先で捜すのが先ず暮会所となっています。異動の荷物が片づき一段落すると、暮会所探しを始め、電話番号と大まかな所在地を把握すると、できるだけ早い日曜日などにその場所を訪ね、一戦を挑むことにしています。

人それぞれに色々な趣味があるのかと思いますが、囲碁もなかなか面白い遊びです。一言に「遊び」あるいは「趣味」とい

公募による植樹祭開催

【宮崎森林管理署】宮崎市の一ツ葉海岸において、「みんなで創ろう一ツ葉の森林」をスローガンに当署、宮崎市、宮崎市みどり推進会議の共催で植樹祭を開きました。一般公募者など230人が参加し、抵抗性クロマツ苗木1000本を植付けました。「大人になったら、成長した松林を見に来たい」との声も聞かれるなど、参加者は各々の思いを託しながら丁寧に植え付けを行いました。



仲良く植樹する親子＝宮崎

ても、馬鹿にできません。副次的な効用も色々あります。知らない土地に行つて新たな知人ができることは共通する部分と思われませんが、囲碁には「人生教訓」的な効用を發揮するときもあります。

囲碁を楽しみながら

例えば、勝っている囲碁（優勢に進めている囲碁）を最後まで勝ちきることは結構難しいものです。そのことは仕事等においても言え、うまくいっていることを最後までうまく終結させるといことは簡単なようで難

しいものです。

また、これ以上手だてがないと思つて諦めると、結局して隣で見ていた人に「ここに石を置けば良かった。手が残っていた（有効な手段が残っていた）」といわれ、何事もそう簡単に諦めてはいけない、という教訓をあらためて思い知らされる時があります。まさに、人生劇場そのものといった観があります。

この原稿を読んでいただいている皆さまの趣味が一層発展することを願うものです。

(前宮崎北部森林管理署長＝現鹿児島森林管理署長 山部哲経)

環境学習の一環で野鳥観察

【沖縄森林管理署】国頭村立安田小学校の児童を対象に環境学習の一環として野鳥観察を行いました。流域管理調整官の指導のもと、早速、学校近くの河川敷をフィールドに双眼鏡で野鳥観察を実施。その後、CD「野鳥紙しばい」を使用して、野鳥の鳴き声や姿、生育環境について学習。また、山や林、草地や川原、水辺など環境ごとに生活する鳥たちについて説明を行いました。最後に、学校ではヤンバルクイナのエサとなるミミズを飼育していることから、ミミズの生態についても説明。児童からは、今後、野鳥に興味を持って接したいとの声が多数寄せられました。



野鳥観察をする児童＝沖縄

緑の募金

全国一斉にスタート
緑化活動への協力を呼びかけ

3月1日から全国一斉に「緑の募金」運動が開始されたのを受け、同日、熊本市の新市街において、「緑の募金」運動の開始式および街頭募金が行われ、当局から宮城勇朗計画部長と田代今朝広指導普及課長が参加しました。

当日は、幸山政史熊本市長をはじめ熊本県や緑の少年団など多数の関係者が参加。募金をし



協力を呼びかける緑の少年団ら

ていただいた方に緑の羽根と花の苗や種子をお渡しし、緑化活動への協力をお願いしました。

春本番を思わせるような陽気の中、緑の少年団の団員たちの募金を呼びかける大きな声が熊本市の繁華街に響き渡りました。
(担当＝指導普及課)



タブノキは照葉樹林を代表する樹木で、海岸近くでは極相林を形成することもあります(三角岳)。

読者の皆さんの大部分はタブノキと言えばベニタブを思いだされるのでは。タブノキの心材は紅褐色ですが特に紅色の濃いのをベニタブと区別し応接台、衝立などの高級家具材として珍重されます。諸説はありますが立木時のタブノキとベニタブの判別はできません。

タブノキと言えば線香ですが、枝葉に粘液を多く含み、粉にし

児童が祖父母と植樹体験

【大分西部森林管理署】大分県宇佐市の中州国有林において、宇佐市立深見小学校福貴野分校児童6人がヤマザクラやウリハダカエデなどの植樹を体験。現地は、ダム湖に隣接した景観の良い場所。児童らは、水面に生える花や紅葉など将来の景観を楽しみに祖父母らと植樹を行いました。最後に、山に関するフリーストークを行い楽しいひとときを過ごしました。



きを過しました。

植樹に汗する児童ら = 大分西部

20 タブノキ (クスノキ科)

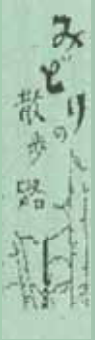
て線香の原料とします。しかし香りはありませんので各種の香木や香草が練り固めてあるそうです。スギの葉も原料として使われます。

タブノキは環境により葉の変化が大きく判別が難しくなります。1年中ついている冬芽は楕円形で多数の芽鱗が4列に規則正しく並び赤みを帯びているので冬芽の観察で判別できます。

新しい枝葉は現在の冬芽のある枝の手前の枝が先へ伸びて冬芽を作るので、いつも新しい深緑色の光沢のある若葉が樹冠の外側にあります。監物台樹木園



の中央東側に胸高直径約52cm、樹高約15mのタブノキがあります。



暖かな日々、外にはハナミズキやツツジ、タンポポやオドリコソウなど白やピンク、黄色の花々が開きいろんなところで春の景色が目に残る。陽気に誘われ出かけてみたくなる季節がやってきた。今月号から広報紙は電子的媒体として局ホームページでの提供へと変わった。これまで目に留まり手にしていた各広報紙だが、これからはパソコンを使ってアクセスし、目的の場所まで出かけて行かないと目にするのができなくなった。パソコンが不得手な私は道に迷いそう、陽気に誘われ出かけるようには行かないようだ。4月1日、期待や不安を胸に14人の採用者があり各署などへ配属となった。各職場や研修など機会を通じて、次代を担う国有林野マンとして大きく羽ばたいていてもらいたい。これまでお届けしていた広報紙。提供の方法が変わっても読者の皆さんが楽しみに出かけたくなる。そんな紙面へさらに羽ばたいて行くことが求められるのだろう。時代に応じた情報の発信が図れるようさらに工夫を凝らしていかなばと心新たにしている。(晴)